

## 文化財の登録について

文化審議会は、平成23年3月18日（金）に本県の横手市に所在する浅舞酒造の3棟、由利本荘市に所在する森子大物忌神社の2棟の登録有形文化財登録を文部科学大臣に答申しました。

今回の答申に基づき、近日中に行われる官報告示を経て正式に登録された場合、本県に所在する登録有形文化財の累計は171件（75か所）となります。

あさまいしゅぞう  
浅舞酒造

- |   |       |  |
|---|-------|--|
| 1 | 対 象   | 浅舞酒造 <small>てん ぽ</small> 店舗<br>浅舞酒造 <small>し こ</small> 仕込み蔵・貯蔵蔵及び作業場<br>浅舞酒造 <small>しんじょうぐらおよ もと ぽ</small> 吟醸蔵及び配場 |
| 2 | 所 在 地 | 秋田県横手市平鹿町浅舞字浅舞388  |
| 3 | 所 有 者 | 浅舞酒造株式会社   |
| 4 | 登録基準  | 一 国土の歴史的景観に寄与しているもの  |
| 5 | 説 明   |  |

浅舞酒造は、大正6年12月に柿崎宗光の呼びかけに応じた地元の7名の発起人により現在地に設立された。西側正面が県道に面し、東西に長い敷地に店舗、酒造工程に係る建物が建ち並び、それらが大屋根で一体となっている。

## 【店舗】

木造平屋建及び土造平屋建、鉄板葺、建築面積119㎡

県道に面する敷地の西端に位置する。切妻造妻入で、正面南寄りの出入口には切妻造の屋根をつける。北隅に桁行5.7m、梁間2.9m、石造平屋建の貯油場を付設する。大きな妻面上部は漆喰壁に化粧梁を六段に重ねて特徴的な構えをつくっている。

昭和前期の建築で、昭和32年に貯油場などを改修している。

## 【仕込み蔵・貯蔵蔵及び作業場】

木造2階建及び石造平屋建、鉄板葺、建築面積1,271㎡

店舗の東側背後に接して建つ。東西棟の大規模な建築で、貯蔵蔵と仕込み蔵を南北に並立させ、その西側に釜場や作業場を設けている。西側は寄棟造、東側は切妻造の鉄板葺きである。東面北寄りには下屋や角屋を付設し、麴室や検査室とする。規模の大きな酒造施設の一例である。

大正後期の建築で、昭和前期に増築、昭和57年に改修が行われている。

## 【吟醸蔵及び配場】

土造平屋建及び石造平屋建、鉄板葺、建築面積165㎡

敷地の東南隅に位置する。東西棟の切妻造鉄板葺きで、吟醸蔵の北面を葺き下ろして配場を設けている。吟醸蔵は土蔵造で内部は一室、配場は石造で内部は東西二室に分け

られている。甃場の北面は地元産の院内石を江戸切仕上げとして積み上げ、窓を三カ所穿ち、重厚な外観をつくっている。

昭和前期の建築で、昭和後期に改修が行われている。

もり こ おおもの いみじんじや  
**森子大物忌神社**

- 1 対 象 森子大物忌神社 ほんでん 本殿  
森子大物忌神社 はいでんおよ へいでん 拝殿及び幣殿
- 2 所 在 地 秋田県由利本荘市森子字八乙女下99-1
- 3 所 有 者 宗教法人大物忌神社
- 4 登録基準 二 造形の規範となっているもの
- 5 説 明

森子大物忌神社は、修験信仰の山として崇敬される鳥海山の登拝口に建立された遙拝所である。境内は秋田杉に囲まれ、一ノ鳥居から社殿まで約300段の石段が築かれている。護摩壇や経塚が現存しており、修験の霊場としての雰囲気満ちている。

平成21年に境内一円が史跡鳥海山として、国史跡に指定されている。

【本殿】

木造平屋建、銅板葺、建築面積19㎡（渡廊付）

八乙女山の中腹に東面して建つ。さんげんしやながれづくり三間社流造の銅板葺き。周囲に高欄付の切目縁をまわす。円柱で三斗組とし、妻は二重虹梁大瓶束である。正面中央間に両開きさんからど棧唐戸を装置し、その前方のみに木階を設ける。庇の虹梁を高く架け、雲竜の彫刻を飾るなど効果的に彫刻装飾が配されている。

建立年代は棟札に大正四年とあり、大工棟梁は畠山清治と記されている。

【拝殿及び幣殿】

木造平屋建、銅板葺、建築面積98㎡

本殿の前方に位置する。桁行三間、梁間三間で、背面を二間増築する。入母屋造銅板葺で、正面に千鳥破風と軒唐破風付き一間向拝を付け、背面に切妻屋根を突き出す。円柱で、木鼻付出三斗を組み、中備にかえるまた幕股を配する。つなぎこうりょう繫虹梁の上に飾られる一対の力士像が印象的である。

建立年代は棟札に安政2年（1855）とあり、大工棟梁は森子村三之丞ほかと記されている。大物忌神の本地である薬師如来を祀る堂宇として建立され、大正に拝殿に転用されるとともに増築がなされた。



浅舞酒造正面外観



森子大物忌神社拝殿及び幣殿外観